

令和 6 年 福祉文教委員会 第 1 回議会報告会

令和6年12月6日

委員長 【 阿久根 真一 】

議 会 報 告 会 実 施 計 画 備 考	委員会 テーマ	御殿場らしい社会福祉について	
	テーマ 設定目的	御殿場らしい共生社会の実現	
	対象団体	民生委員児童委員（正副地区会長） ケアマネージャー・介護士（5～6名） 社会福祉協議会（3名） 御殿場・小山障害者自立支援協議会（5名）	
	調整事項	実施日	令和 6 年 1 1 月 6 日（水）
		時間	午後 2 時 3 0 分 ～ 午後 4 時 3 0 分
		会場	御殿場市役所 東館 3 階
		出席 予定者	
	事前準備	役割 分担	開会挨拶・基調報告：阿久根委員長、閉会挨拶：川上副委員長 司会：恵美子委員、計画書：高村委員、受付：昌美委員・池谷委員 案内通知：阿久根委員長、グループワーク：全員
		資料	資料作成：芹澤委員
		その他	
	備考	行政視察した内容を基調報告した後、3 グループに分かれ、ワークショップ形式で、問題や課題の抽出、また共有して取り組んでいくべきこと等を意見交換する。	

議 会 報 告 会 実 施 報 告 備 考	実施日時	実施日	令和 6 年 1 1 月 6 日（水）	
		時間	午後 2 時 3 0 分 ～ 午後 4 時 3 0 分	
		会場	御殿場市役所 東館 3 階	
	出席者	当日 出席者	福祉文教委員会委員 6 名、御殿場市民生委員児童委員協議会 9 名 障害者自立支援協議会 4 名、介護支援専門員連絡協議会 6 名 御殿場市社会福祉協議会 3 名	
		実施内容 概 要	「御殿場らしい共生社会について」をテーマとして、基調報告後、 「環境のバリアフリー」「文化・教育のバリアフリー」「心のバリアフ リー」について、3 グループに分かれてワークショップ を行った。 活発な意見交換を行い、改善点等は今後市に働きかけていく事とし、報告 会を終了した。	
	報告書	報告書作成	詳細は別紙	
		議会だより	原稿は別紙	
	備考			

別紙様式 2

議会報告会実施報告書

開催日時	令和 6 年 1 1 月 6 日（水） 午後 2 時 3 0 分～午後 4 時 3 0 分	
開催場所	市役所東館第 1 ・ 2 委員会室 ほか	
テ ー マ	御殿場らしい共生社会のまちづくり	
出席議員	司会者	小 林 恵美子
	報告者	基調報告：阿久根 真一
	その他	ワークショップのグループ A：川 上 秀 範・小 林 昌 美 B：阿久根 真 一・小 林 恵美子 C：池 谷 晴 一・芹 澤 勝 徳
参加人数	福祉文教委員 6 名、御殿場市民生委員児童委員協議会 9 名 御殿場小山障害者自立支援協議会 4 名、御殿場市社会福祉協議会 3 名 御殿場小山介護支援専門員連絡協議会 6 名 計 2 8 名	
実施内容	「御殿場らしい社会福祉について」を年間テーマとし、行政視察をした内容を基調報告した。 その後、3 グループに分かれ、「環境」「教育・文化」「心」を論点とし、ワークショップ形式で、それぞれのできている点（整備済）、できていない点（未整備）について意見交換した。 ワークショップ終了後、各グループの報告、参加者の代表からの意見発表を行った。	
主な意見 ・ 提言等	別紙の報告書及びアンケート集計結果のとおり。	

以上のとおり、報告します。

令和 6 年 1 2 月 6 日

御殿場市議会議長 様

御殿場市議会 福祉文教委員会 委員長 阿 久 根 真 一



1. 報告会の概要について（計画・準備・実施）

期首に作成した日程計画に基づき、選定したテーマに沿った議会報告会を開催した。今回は御殿場市議会議員選改選後最初の報告会ということもあり、報告会の開催主旨・目的・方法などについて時間をかけて説明を行い、委員全員が同じ認識を持てるよう事前準備を行った。また報告会開催に向けては、委員それぞれに役割を分担し当日までの運営にあたったため、当初の計画通りに実行することが出来た。

報告会の参加者は、民生委員児童委員協議会9名・障害者自立支援協議会4名
介護支援専門員連絡協議会6名・社会福祉協議会3名 合計22名

2. ワークショップで出された主な意見について

【 環境のバリアフリー 】

（良い点）・・・整備されている、認められ始めている

- ・幹線道路は整備されてきており、人が集まれる拠点（集会所、公民館、コミセン）が市内には多い。

（悪い点）・・・整備が進んでいない、受け入れられていない

- ・一歩横道に入ると段差や側溝に蓋の無い箇所等があり、シニアカー、車椅子、自転車高齢者の歩行等にて支障がある箇所が多い。
- ・高齢者向けモデル施設（サービス付き高齢者住宅など）が少ない。
- ・バス等公共交通機関の運行本数が少ない、買い物などが不便。

【 教育・文化のバリアフリー 】

（良い点）

- ・障がいのある人の文化、芸術活動の場が多いのと、地域交流の場も多い。
- ・学校における特別支援学級の充実と、市内にある県立特別支援学校の存在は大きい。

(悪い点)

- ・障がいのある人は、自分の障がいについて理解ができていない、又は障がいがあることを知られたくないなどの理由で「自分は大丈夫」と思い込み、共助を求めない方が多い。
- ・障害児者の農業体験、スポーツ体験などの機会がまだまだ少ない。

【 心のバリアフリー 】

(良い点)

- ・当市の市民感情には「お互い様」の心がある。
- ・障がいのある人自身も自己肯定感をもち社会貢献に努めようとしている。
- ・高齢者自ら居場所づくりを行っており、互いに触れ合う機会を設けている。

(悪い点)

- ・子どもの障害について保護者が受け入れ切れず苦しんでいる人も多い。
- ・見た目でわかる障がいのある人は支援を受けられやすいが、そうでない人は支援を受けにくい。
- ・自分の病気について、身近なところで仲間と話せる場がない。
- ・通訳や翻訳など、外国人に対する情報提供が少ない。

【 ワークショップの様子 】

A グループ



B グループ



C グループ



各グループの意見



3. ワークショップの状況と反省について

ワークショップについては「環境」「教育・文化」「心」の3つバリアフリーについて、日頃障害を感じている事例（悪い点）及び、逆に進み始めてきた事例（良い点）についての意見交換を行った。参加者からは、それぞれの立場・環境において、日常感じている困り事、あるいは充実してきた事など多くの意見が出され、活発な意見交換が行われた。終盤において時間が足りない雰囲気であったため急遽延長しフリートークとまとめの時間を設けたが、最初からもう少し時間にゆとりを持たせるべきであった。

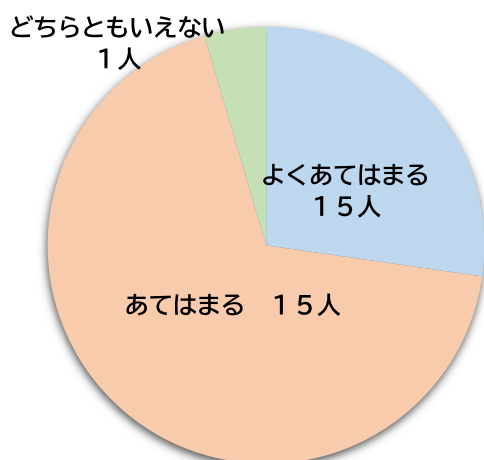
4. 報告会実施後の課題とまとめ

今回の議会報告会を通じて、日頃から社会的立場の弱い人々と接し、携わっているみなさんから経験に基づいた生の意見や要望を聞くことが出来た。これらの貴重な意見と過日の管内及び先進地への行政視察の見聞を踏まえ、今後における「御殿場らしい共生社会のまちづくり」に向けた主課題として以下事項を取り上げた。

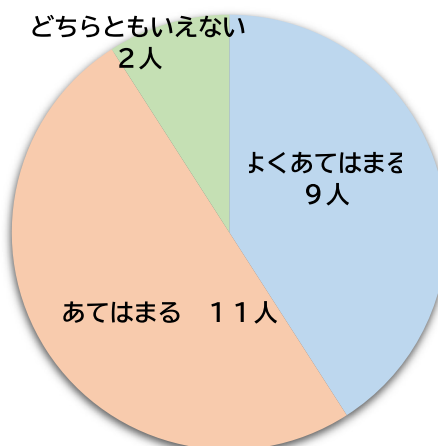
- ・生活道路における歩道や高齢者用の駐車場の整備等、今後の高齢化社会を見据えたインフラ整備。
- ・高齢者、障がいのある人など、車を運転できない交通弱者の移動手段となる公共交通機関の整備及びサービスのさらなる拡充。
- ・農業やスポーツを通じた高齢者、障がいのある人との交流の場の創出。
- ・「困った時はお互い様」であり互いに助け合う心と行動を育む風土の醸成。

高齢者・障がいのある人・外国人等が普段生活する中での困り事を共に考え、手助けをするなど一人ひとりが具体的に行動を起こすことで共生社会は築かれていく。その基盤をつくり「共生社会のまちづくり」が、御殿場市では当たり前になることを目指し、今後提言を行っていくものとする。

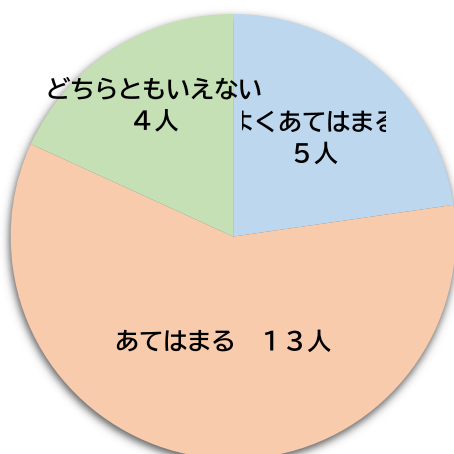
テーマは適切であったか



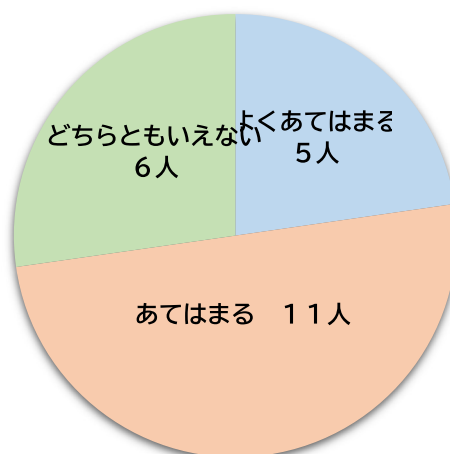
運営は適切であったか



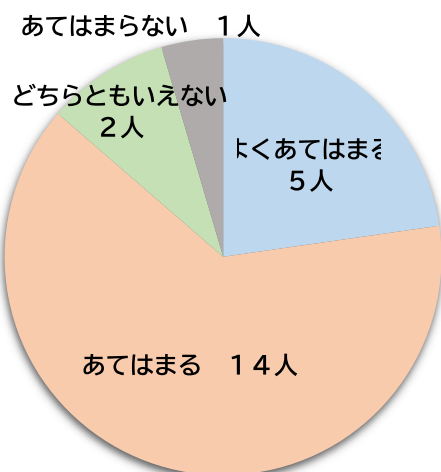
資料は適切であったか



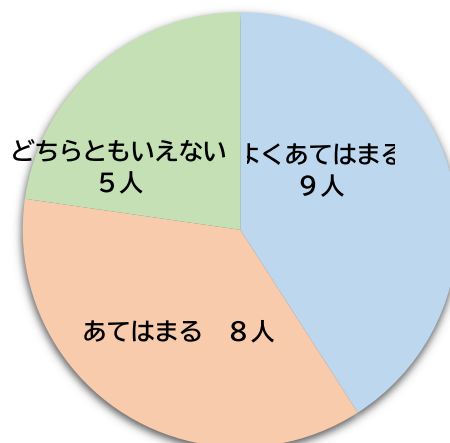
時期は適切であったか



時間は適切であったか



ほかの人に勧めたいか



【今回の報告会に関して改善したほうがよい点・ご要望等】

- ・ワークショップで、様々な立場の方の意見がたくさん聞けてよかった。話もしやすかった。
- ・議会報告会ということで参加させていただきました。
心の準備もなく、事前にやる内容・テーマについてお知らせいただけるとより充実して実のあるものになったと思います。
- ・福祉の関係者以外の方も出席を。
- ・多職種の方の意見がいろいろ聞けてよかった。
- ・各専門職毎のグループに分けた方が話が広がるように感じる。
- ・専門職での話し合いに市議の方に参加してほしいです。
- ・ワークショップで様々な立場の方の意見がたくさん聞けてよかった。話しやすかった。
- ・時間的に少ない
- ・いい勉強になりました。また、このような機会を作ってください。
- ・いろいろな方向からの話し合いで、とても勉強になりました。
- ・グループワークができてよかった。ファシリテーター役が十分に役割を果たしていた。
- ・当事者の参加
- ・このような機会を作っていただいたことはよかったです。
- ・ワークショップが、スムーズに進められていてよかったです。
様々な分野の方の意見が聞ける場となりとてもよかったです。いい経験になりました。

【市議会に伝えたいこと】

- ・市民の声を幅広くとらえてください。
- ・民意が少しでも伝わればと思います。その、民意が返ってくることを願います。
- ・市民の声を幅広くとらえてください。
- ・まとまりのない思いついたことをいってしまうだけで申し訳なかったと思います。
貴重ないい機会だと思います。ありがとうございました。
- ・良い御殿場市のために頑張ってください。
- ・大変有意義な報告会、ワークショップでした。今後も継続していただきたいです。
ワークショップで出た意見の改善してほしいことの経過・結果の報告もあるとよいです。
- ・グループワークの後、直接意見を伝えることができてよかったです。
- ・福祉の実情をもっと知ってほしい。
- ・高齢者などの移動手段について考えが進んでくれたらと思います。

御殿場市議会 福祉文教委員会 令和6年度 議会報告会

テーマ：

御殿場らしい共生社会のまちづくり

日 時：令和6年11月6日（水）午後2時30分

場 所：御殿場市役所 東館3階 会議室

次 第

1. 開会のあいさつ
2. 委員自己紹介
3. 基調報告
4. ワークショップ（分散会）の説明
5. ワークショップの実施
6. 各ワークショップの発表
7. 質疑応答
8. 参加者感想
9. お礼の挨拶
10. 閉会の挨拶

福祉文教委員会メンバー紹介

委員長

阿久根 真一



副委員長

川上 秀範



委員

小林 恵美子



委員

池谷 晴一



委員

小林 昌美



委員

高村芳章



委員

芹澤勝徳



令和6年度 御殿場市議会 福祉文教委員会

行政視察基調報告

日時：令和6年11月6日（水）午後2時30分

本日の基調報告の目次

1. はじめに
 - 1) 委員会紹介と年間テーマについて
 - 2) 視察先の選定
2. 視察先及び事業内容（令和6年7月10日～12日）
 - 1) 福井県越前市 子どもの居場所づくり事業について
 - 2) 福井県福井市 重層的支援体制整備事業について
 - 3) 石川県白山市 地域共生社会について
 - 4) 石川県金沢市 多世代共生への取組みについて
3. 本市の現状と共生社会に向けて
 - 1) 本市の状況
 - 2) 共生社会とは
 - 3) 共生社会に向けて
4. まとめ



1. はじめに

1) 委員会紹介と年間テーマについて

福祉文教委員会

⇒ 健康福祉部 及び 教育部を所管

前年度

「教育環境の充実化」を年間テーマとして調査研究後、議会報告会を実施

◆教育 ⇒ 教育部所管の事業

今年度は、全ての市民が対象となる

「社会福祉の拡充」

についてを年間テーマとすることに委員会協議会にて決定。

◆福祉 ⇒ 健康福祉部所管の事業



1.2) 視察先の選定

- 越前市 ⇒ 子どもの居場所づくり事業
- 福井市 ⇒ 重層的支援体制整備事業
- 白山市 ⇒ 地域共生社会の実現
- 金沢市 ⇒ 多世代間交流



御殿場らしい共生社会のまちづくりを目指します！

2. 視察先及び事業内容

越前市庁舎

1) 福井県越前市 子どもの居場所づくり事業について

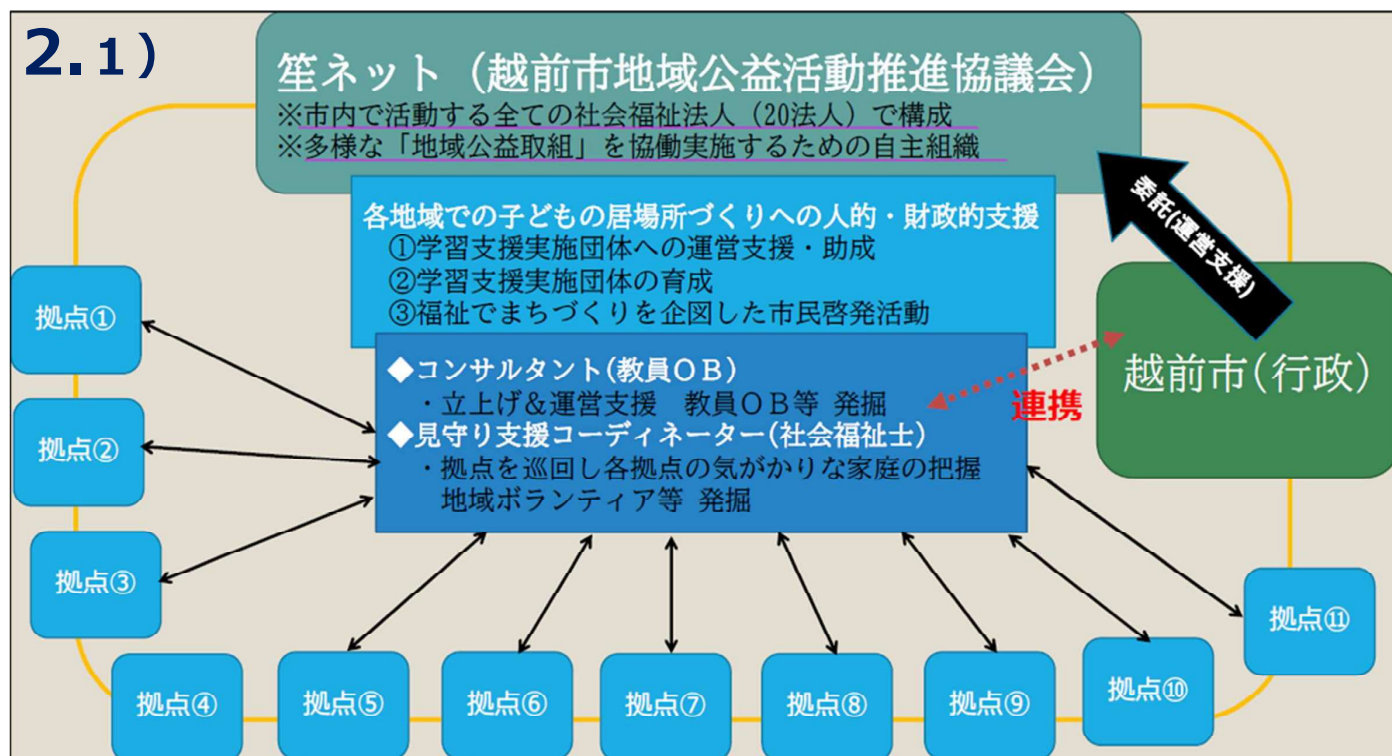
◆ 特色のある施策

①地域での支援⇒小学校区単位で11拠点に設置

②地域の学習支援拠点と市との連携⇒

各拠点は主に見守り 市は専門家による公的支援

2.1)



2.1)

地域の学習支援 課題

- ① 人材発掘(教員OB、地域・学生ボランティア)
- ② 気がかりな子どもへの参加の促し
- ③ 全ての小学校区(17地区)への設置
- ④ 子どもの送迎
- ⑤ 新規開設場所の確保

本市の状況：放課後児童教室⇒**8小学校区 9 教室**
 民間企業の活用⇒**ノースガイア**との提携

2.2) 福井県福井市 重層的支援体制整備事業について

◆ 特色のある施策

① 包括的相談支援事業

② 参加支援事業

③ 地域づくり事業

2.2) 福井市のひきこもり支援の重層的支援体制整備事業のかかわり

包括的相談支援事業



- ・心理職を中心にアウトリーチ
- ・教育委員会やスクールソーシャルワーカーと多機関協働会議を通じて定期的に情報交換するなど連携強化

参加支援事業



- ・ひきこもりなど社会のつながりが弱い方へ、ボランティア活動をマッチングし、多様な社会参加へつなげる
- ・活動参加者で、就職へつながる方も複数出てきている

地域づくり事業



- ・親の会やフリースペースなど当事者や関係者の居場所が生まれている
- ・親の会を通じて、こどもへの対応を変え、改善が図られたなどの声もいただいている

本市の状況 : 第4次地域福祉計画に盛り込む

2.3) 石川県白山市 地域共生社会について

『白山市共生のまちづくり条例』 平成29年10月1日制定
障がい者を理由とする差別の解消を基本理念に定めた

「共生のまち白山市」を実現することを目的としている

3つの柱

- ① 情報コミュニケーションにおける共生
- ② 就労における共生
- ③ 保育及び教育における共生

2.3)

条例制定による具体的な取り組み

- ① 地域との連携・・・共生のまちづくり推進協議会の設置
- ② 市役所の取り組み・・・差別解消のための市職員研修会、対応要領、マニュアル作成
- ③ 障がい者差別解消のまちづくり支援協議会の設置(評価を行う組織)
- ④ 各種啓発活動



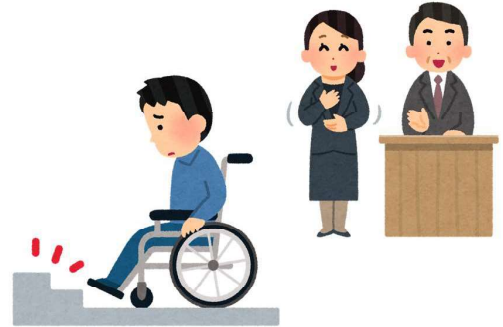
2.3)

2024年4月に法的義務化された**合理的配慮**とは？

障がいのある人が社会の中で出会う、困りごと・障壁を取り除くための調整や変更のことであり、民間事業者においてもその提供が義務化された。

具体的には・・・

- コミュニケーションツール作成
- 物品購入、バリアフリー工事施工
- 手話通訳者等の配置



実施した事業者への補助金交付(上限2万)を開始

2.4) 石川県金沢市

Share金沢「多世代交流事業」について

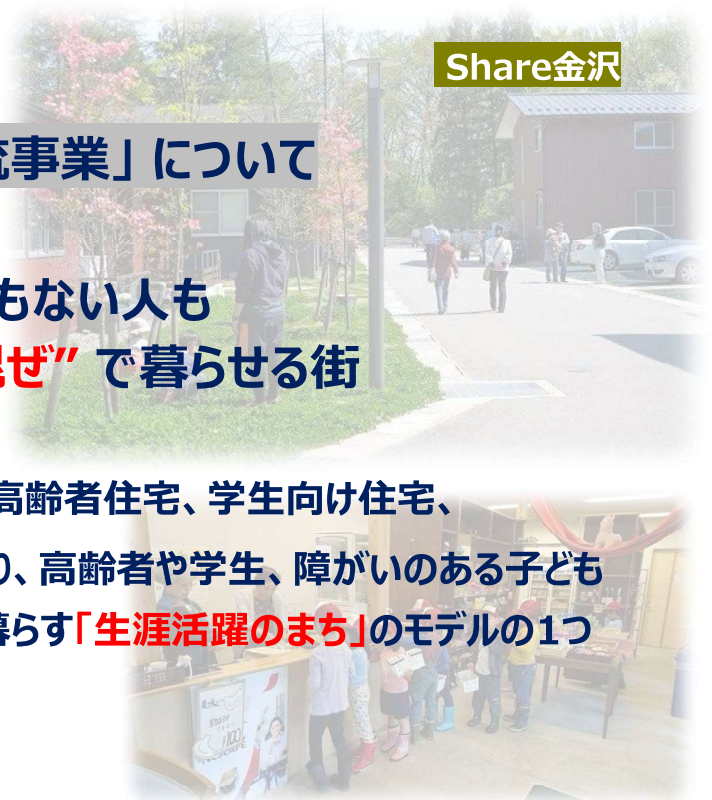
子ども、高齢者、障がいのある人もない人も
"ごちゃ混ぜ"で暮らせる街

Share金沢

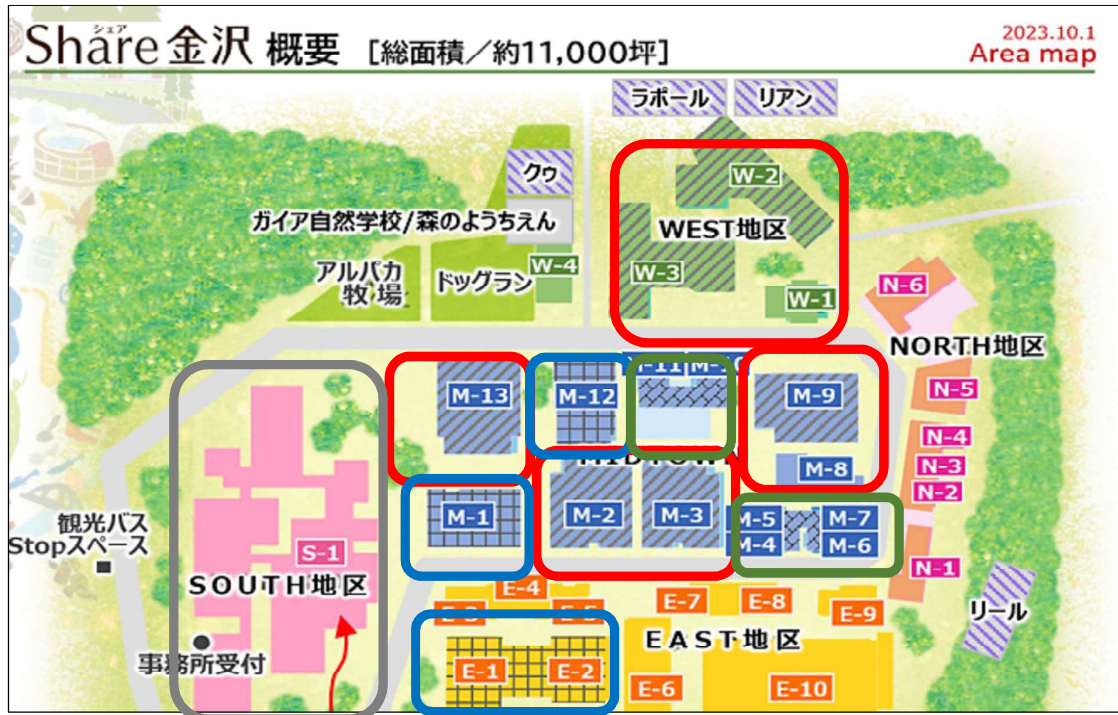
運営 社会福祉法人 佛子園

敷地内にサービス付き高齢者住宅、学生向け住宅、児童入所施設等があり、高齢者や学生、障がいのある子ども達が同じ空間の中で暮らす**「生涯活躍のまち」**のモデルの1つとして挙げられている。

Share金沢



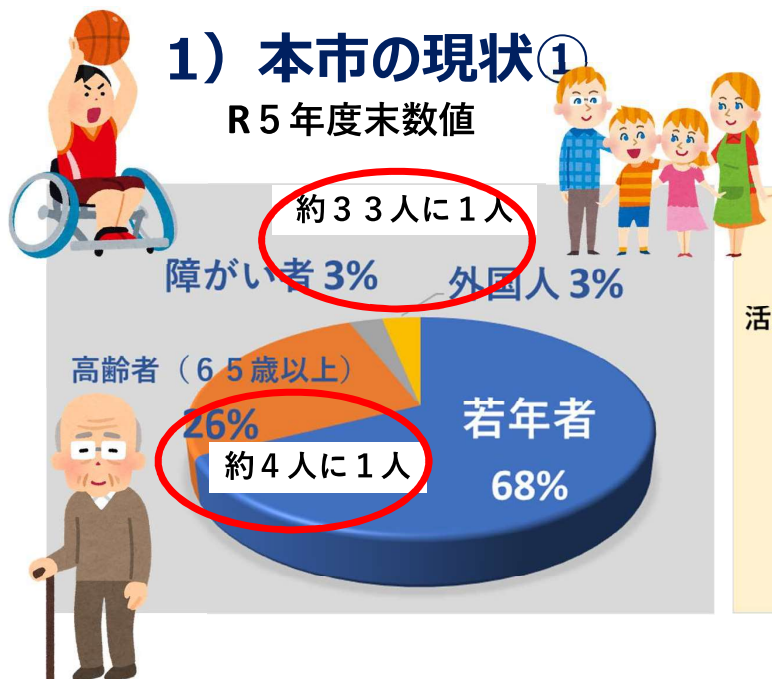
2.4)



3. 本市の現状と共生社会に向けて

1) 本市の現状①

R5 年度末数値



本市の現状②

単位：世帯

社協加入状況

活動・利用者

加入世帯

市民全体

22,000

36,000

3. 1) **社会福祉協議会の主な活動**

1. 生活支援体制整備事業
2. 移動支援サービスの創出
3. 住民参加型生活支援事業
4. 地域福祉活動
5. 御殿場市成年後見支援センター事業
6. 生活困窮者対策
7. フードバンク事業
8. こども食堂(こどもの居場所)の支援
9. 地域共生社会実現に向けた事業



3. 2) あらためて「共生社会」とは

これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境にな
かった高齢者、障がい者等が、積極的に参加・貢献して
いくことができる社会であり、それは誰もが相互に人格
と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互
に認め合える全員参加型の社会である。

SDGs CLUB

3. 3) 共生社会に向けて

「環境のバリアフリー」

- ①物理的なバリア・・・狭い通路や段差など車いすだと通りにくいことなど
- ②制度のバリア・・・障がいがあるから特定の資格や免許を取得できないなど
- ③文化や情報面のバリア・・・点字や手話がない講演会、音声だけのアナウンスなど

「教育のバリアフリー」

- ①インクルーシブ保育、教育・・・障がいのある子もない子も同じ場で学ぶことで子どものときから多様性に対する感覚を学ぶ

「心のバリアフリー」

- ①環境や心のバリアを取り除くのは、社会の責任であると理解すること
- ②高齢者、障がい者等を差別しない
- ③自分とはちがう状況にある人ともコミュニケーションできる力を身につけることや困り事や苦しみを理解する心をもつこと

4. まとめ

高齢者・障がい者等の方が普段生活する中での困り事を共に考え、手助けをしたりするなど、一人ひとりが具体的に行動を起こすことで、共生社会は築かれていきます。先ほどの3つのバリアフリーを踏まえその基盤をつくり、御殿場市では 当たり前とされる共生社会のまちづくりを全市民で目指していきましょう。

ご清聴ありがとうございました。

